

令和7年5月定例記者会見要旨(令和7年5月28日)

1. 瀬戸内国際芸術祭の春会期が25日(日)に終了したが、瀬居、沙弥地区の開催における手応えや今後の課題についてお聞きしたい。

関係者の皆様のご協力により、無事盛会のうちに瀬戸内国際芸術祭2025春会期を終了することができましたこと、まずは御礼申し上げます。

今回は、瀬居島が初めて会場に加わり、総勢16名ものアーティストに島全体を会場とした一大プロジェクト「SAY YES」を展開いただき、ご来場者様から好評をいただきましたこと、大変うれしく思います。

毎回大人気の、地元のかたによる島メシの提供に加え、今回は新たな試みとして、会場内で市内特産品や土産物のブースを設置したことで、市外県外の来場者に坂出市の魅力を大いにPRできたと考えております。

アクセスの面では、民間事業者のかたのご協力により、十分な台数の駐車スペースの確保、シャトルバスの運行が実施できました。また、利便性が高く、クリーンな移動手段として、シェアサイクルも初導入し、多数のかたにご利用いただきました。

さらに、市内周遊の促進および滞在時間の延長を図るため、地域おこし協力隊主催の「坂出純喫茶スタンプラリー」を同時開催し、人気を博しているところでございます。

以上のことから、瀬戸内国際芸術祭瀬戸大橋エリアはおおむね好結果であったと受け止めてございます。

今後の課題についてですが、会場である島の住民の人口減、高齢化率が進んでいる現状のままでは、開催が困難な状況に陥る可能性がございます。次回は、瀬戸内国際芸術祭を通じ、来場者や関係者と島民の交流の場をこれまで以上に積極的に設け、交流人口・関係人口の増加に注力できればと考えております。